

福山が好きです！

福山市議会議員 大田 祐介

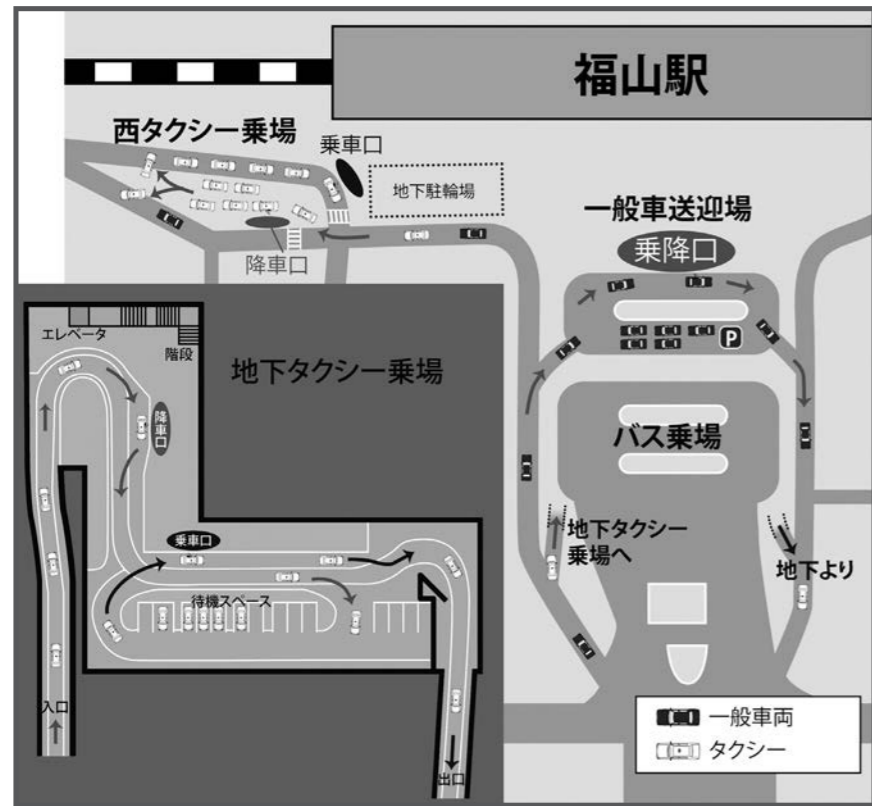


「議員力検定」に合格しました！



計議資料

私の駅前地下送迎場見直し案



地下送迎場の完成経緯

7月1日の供用開始以来マイカーの利用は一日平均280台と伸び悩んでいます。この地下送迎場計画は紆余曲折があり、福山城の石垣「舟入遺構」を保存するために、当初案より地下構造が非常に複雑になりました。私も複雑な構造を改善する代替案を提案したり、すべて地上やりくりする当初計画への差し戻しも提案しました。最終的に市当局の強い意向に押し切られた形になりました。

地下と地上の入れ替えを！

そこで、私は地下と地上の入れ替えすなわち地下送迎場をタクシー乗り場とし、地上をマイカー送迎場とする改善案を提案しました。不特定多数の市民にとって入口がわかりにくい、出口の勾配が急であるという

駅西ロータリーをタクシー乗り場へ

次に、単純に地上と地下を入れ替えただけではタクシー乗り場が不足するので、福山駅西送迎場(ロータリー)もタクシー乗り場に転用してはどうでしょうか。現状ではニューキャッスルホテル周辺において多数のタクシーが路上に待機しており、問題となっています。転用により違法駐車を排除することも可能であり、駅から北西方向に行く客には利便性が高いでしょう。対して駅前地下のタクシー乗り場からは駅から南東方向に行く客には利便性が高く、目的地によってタクシー利用者による乗り場の選別行動が発生すると考えられます。

駅正面の地上でマイカー送迎を！

そして駅前の地上部でマイカーによる送迎が可能になれば、不特定多数の市民、老若男女が迷うことなく利用することができ、駅前広場整備に対する批判も弱まるでしょう。多くの市民の利便性が向上するよう、地下送迎場の運用を見直すという方針転換が必要ではないでしょうか。

マニフェストを読んで選挙に行こう！

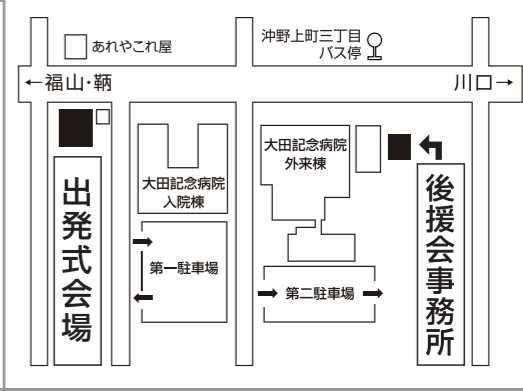
マニフェストには具体的な①「政策」を②「何時」までに③「どの手法」で④「どの財源」で実行するかという4条件が必要です。以下の私のマニフェストの期限②は4年間とし、議員には財布(予算執行権)が無いので極力財源を必要としない内容となっています。

分野	①政策	③手法	④財源	備考
市民生活	固定資産税が高すぎます	固定資産税評価額の適正化に取り組みます。	不要	安定財源である固定資産税にメスを入れます。
財政再建	市の赤字縮減に取り組みます	下水道整備計画を見直し、1,000億円を超える下水道事業債を縮減します	不要	下水道は収益を生まず、維持費も高く地震にも弱い構造です。
教育	子供の体力づくり 自然体験・政治意識の向上	野球大会・マラソン大会 駅伝大会・子どもキャンプ 子ども議会の開催	ボランティアにより開催 その開催費用の補助制度を活用	議員は教育現場に直接介入できませんが、様々なイベントにより活性化します。
	学校図書を充実させ 活字離れを防ぎます	ボランティアによる整備 市民からの図書の寄付	市民からの寄付	子どもの頃に読んだ本は生涯忘れられないものです。
医療福祉	崩壊する夜間救急医療対策	救急支援診療所の開設 医療崩壊の現状を周知徹底し、 小児科の適切な利用方法を啓蒙	県・市・医師会による	兵庫県立柏原病院の小児科を守る会を参考にします。
	介護保険制度を守ろう 急増する認知症対策	施設整備より住宅介護サービスの充実、 認知症サポーターの養成、 もの忘れ検診の実施	国の交付金を活用	このままでは介護保険はパンクします。自治体により取り組みに大きな差が生じています。
林業	自然エネルギーヘシフト 木質バイオマスの活用	薪ストーブ、ペレットストーブの普及 間伐材の活用	バイオマス 関連補助事業制度の活用	一部エネルギー自給自足社会を目指します。
漁業	芦田川の水質浄化	河口堰の弾力的開放 河川敷に遊歩道を整備して芦田川 に対する市民意識の向上	国土交通省の 河川整備費を活用	瀬戸内海の漁業を活性化するために河口堰の定期的開放が不可欠です。
農業	耕作放棄地対策 イノシシ対策	若者・リタイア後の半農生活の ススめ、大人の秘密基地作り ハンターの養成	地域おこし協力隊(総務省) の補助金	山野町の「ゆうすけ山荘」 駅家町「服部ベース」で 実施中です。
交通政策	自転車のまちづくり	自転車道の整備、自転車による観光 電動アシスト自転車、 レンタルサイクルの普及促進	国・市施策の後押しをします	交通渋滞を減らし、市民の健康づくりにも繋がります。

「大田ゆうすけ」をよろしくお願いします！

大田記念病院の東隣りに事務所を開設しましたので、ぜひお立ち寄り下さい。お金と人手のかからない選挙を実現するため、今回から「後援会入会カード」を廃止します。今までの蓄積もありますし、カードを集めるより4年間の実績やマニフェストの配布に力点を置くべきと考えました。すなわちこの「チラシ」を皆様の方で広めていただければ幸いです。さらに、ミニ集会を開催したり、挨拶回りにお連れ下さる方を募集しています。日々の活動はホームページ、ブログ、メールマガジン、フェイスブック等で発信しています。メールマガジン登録はorion@urban.ne.jp宛に「メルマガ希望」と題して空メールを下さい。

後援会事務所の紹介



出発式 4月1日(日)9時～
大田記念病院の西側駐車場(のがみ屋隣り)にて「出発式」を行います。
自転車 で街宣する予定です、応援をよろしくお願いします。

個人演説会 日時:4月5日(木)19時～ 場所:脳神経センター大田記念病院 4階会議室

問い合わせ先 / 福山市議会議員 大田 祐介 自宅 / 〒720-0804 福山市緑町2-13
e-mail / orion@urban.ne.jp TEL/084-932-7855 FAX/084-921-8801

福山出身戦没者の慰霊活動

私は福山歩兵第41連隊のあった緑町の商業施設ココローズの一角に福山兵営跡地の説明板を設置し、この地より多くの若者が出征し戦死した歴史の継承に取り組んでいます。



レイテ島の41連隊慰霊碑

来福したクリスティーナ・ロマルデス タクロバン市議



ニューギニアから帰還したご遺骨

ニューギニアの子供達と

教育・農業・国際交流・被災地支援に取り組む

1 子供の自然体験・スポーツ振興・政治意識向上への取り組み

- 山野峡子供キャンプ・子供登山教室・子供雪山体験教室の開催(福山山岳会の協力による)
- グリーンライン駅伝・緑町公園リレーマラソン大会の開催(福山市民走ろう会の協力による)
- 福山リトルシニア主催による大田祥子杯中学生野球大会の開催
- 「子ども議会」開催の提案、有権者教育への取り組み、成人式の活性化

2 農業振興への取り組み

- JA瀬戸主催「ぶどう塾」に参加し、ぶどう栽培について学び、各地のワイナリーを視察する
- 箱罫によるイノシシ捕獲、秘密基地「服部ベース」開拓により有害鳥獣対策を実施
- 山野町の休耕田を開墾して子供たちと麦を栽培し、うどんを製麺する

3 フィリピンのレイテ島・タクロバン市との交流再開

- 福山市議として二十数年ぶりにタクロバン市を訪問、ロマルデス市長と面談
- レイテ島の慰霊碑の維持管理状況の調査や、福山41連隊将兵の遺骨が眠っている陣地跡の調査を実施
- タクロバン市議訪問団の受け入れ(友好都市提携後初めて)

4 ニューギニア慰霊の旅に参加

- ニューギニア戦で日本兵は生き伸びるために敵兵の人肉まで食べ、そして敵が迫ってくるなか自力で脱出できない負傷兵には自決用の手榴弾が渡されました。多くの戦死者をニューギニアに置き去りにしたまま現在の平和と繁栄を享受している私たちは、戦後の清算を先送りしてきたと言えるでしょう。

5 東北の被災地支援

- 陸前高田市の中学生に学用品を寄付 ● 奇跡の一本松再生への支援活動
- 今年度は政務調査費(156万円)を返上して被災地支援にまわすよう要望
- 高校生に自転車を送付、自分の車(キャンピングカー)を寄付 ● ボランティアバス「てごうし隊」の支援



平成20年に広島大学大学院・社会科学部 研究科マネジメント専攻に入学し、全国の河口堰について研究して修士論文「芦田川河口堰に関する政策研究」を執筆し、早稲田大学・長良川河口堰と比較して「」を書き上げました。

また、平成22年3月の市議会一般質問・予算委員会において、河口堰から取水する工業用水全量を中津原浄水場より配水する能力について質問し、配水管の口径や水利権のコスト等を詳細に調査した結果、一時的であれば河口堰を開放することが可能になる条件整備法を示唆しました。

他にも水質ファースト1に対する社会的問題提起「とかあくん芦田川水泳大会を開催したり、多くの市民が芦田川に集えるよう河川敷の遊歩道のリニューアルを国土交通省に要望してしまっ。



「新ノ津ギャラリー」ありそ楼をオープンさせました。新の新たな交流・情報発信の場として活用する予定です。この建物は築95年の廃屋状態の遊郭跡であり、建物調査は京都華頂大学の川島智生教授(建築史学)に依頼し、施工は明神町の小林工務店様、看板題字は田中蘆雪先生にお願いしました。この建物一帯は江戸時代に有磯(ありそ)と呼ばれた全国でも有数の遊郭であり、港町の社交場として栄えました。残念ながら遊郭という負のイメージからか、独特の意匠を凝らした遊郭建築の多くは取り壊されましたが、現在、新の当時の姿を留めている遊郭建築は「ありそ楼」のみです。

1階 ギャラリー&カフェとしてアーティスト・バンク「ちよこはび俱樂部」による作品展示

2階 新町並みひな祭りの期間中は津波で流された「震災離」の展示

3階 正面に「井天島」が見える素晴らしい眺めです。

☎080-1636-7965(みん)に確認の上お越し下さい。(不定休)

芦田川の浄化について

新のまちづくり

医療・福祉問題に取り組む

- 認知症を支えるまちづくりについて
今後急増する認知症対策には自治体としての取り組みが重要です。認知症になっても住みながら地域で生活出来るように認知症サポーターの更なる養成や「もの忘れ検診」の実施等を訴えました。
- 夜間救急医療体制の維持について
すでに福山市の小児の2次救急医療体制は崩壊の危機にあります。安易に夜間救急病院を利用するコンビニ受診の抑制や救急車の適正利用を呼びかけ、救急病院の負担を軽減するように求めています。
- 子どもの医療費無料化の是非について
医療費の無料化は素晴らしい施策のように感じられますが、少数で激務の小児科医をますます疲弊させる可能性があります。無料化よりも小児科医を守る体制を作り、福山市に赴任したいという小児科医を増やす施策が必要ではないでしょうか。
- 特別養護老人ホームの待機者問題について
核家族化による家庭介護力の低下や、在宅サービスの不足により特別養護老人ホーム入居希望者が増えています。高コストの特養を増やして介護保険がパンクしないよう、適切なケアマネジメントと在宅介護サービスの充実が急務です。
- 要介護認定システムの精度向上について
近年、介護認定に対する不透明感や、意図的に低く判定しているのではないかと声がかかります。私は認定審査員の経験者として、更なるシステムの適正化と、市民に対する説明責任を果たすよう働きかけています。
- 生活保護費の急増について
福山市の保護費は100億円を超えましたが、その半分は医療費です。病气やけがにより就労できず生活保護を受給されている実態があり、適切な医療により早期社会復帰を訴えています。このままでは社会保障費で財政破たんします!